



第72回

# 全国植樹祭

しが  
2022

木を植えよう びわ湖も緑のしずくから

## 実施計画 <概要版>



## 第1章 開催概要

1	開催意義	1
2	滋賀県における全国植樹祭の開催状況	1
3	開催理念	2
4	開催方針	4
5	大会テーマ	5
6	シンボルマーク	5
7	大会ポスター原画	5
8	開催会場	6
9	主催	8
10	開催規模	8
11	開催日	8
12	新型コロナウイルス感染症対策	8

## 第2章 式典行事計画

1	基本的な考え方	9
2	式典演出計画	9
3	式典運営計画	9
4	式典進行プログラム	10

## 第3章 植樹行事計画

1	基本的な考え方	15
2	お手植え計画	15
3	お手播き計画	16
4	代表者記念植樹計画	17
5	招待者記念植樹計画	17
6	植樹会場整備計画	18

## 第4章 会場整備計画

1	基本的な考え方	22
2	施設配置図・イメージ図	22
3	主要施設計画	24
4	案内・誘導計画	25
5	電気・給排水・通信設備計画	25
6	飾花計画	25

## 第5章 運営計画

1	基本的な考え方	26
2	招待計画	26
3	招待者行動計画	27
4	受付計画	28
5	特別接伴計画	29
6	作品御覧	29
7	御懇談	29
8	湖国「滋賀」のおもてなし・魅力発信	30
9	サテライト会場等計画	32
10	医療・衛生計画	34
11	消防・防災・警備計画	35
12	実施本部計画	36
13	研修リハーサル計画	37
14	雨天時・強風時対応計画	37

## 第6章 宿泊・輸送等計画

1	基本的な考え方	38
2	宿泊計画	38
3	輸送計画	39

## 第7章 荒天時計画

1	基本的な考え方	40
2	開催会場	40
3	開催規模	40
4	荒天時運営計画	41

## 第8章 記念事業等計画

1	基本的な考え方	42
2	記念事業	42
3	関連事業	44

## 第9章 広報・協賛計画

1	基本的な考え方	45
2	広報計画	45
3	協賛計画	46

## 1 開催意義

本県は、すべての県民が森林づくりに主体的に参画し、長期的な展望に立ち、森林の持つ多面的機能が持続的に発揮されるよう、緑豊かな森林を守り育て、琵琶湖と人々の暮らしを支えるかけがえのない滋賀の森林を健全な姿で未来に引き継ぐことを決意し、平成16年(2004年)に「琵琶湖森林づくり条例」を施行しました。

また、その翌年の平成17年(2005年)には、この条例の理念を実現するため、琵琶湖と人々の暮らしを支える森林づくりの推進を基本方向とする「琵琶湖森林づくり基本計画」を策定し、県民をはじめ多様な主体とともに、森林・林業に関する様々な取組を展開することとしました。

さらに、平成29年(2017年)には成熟期を迎えた森林資源を循環利用するため、県、市町、関係者等、様々な主体が一体となって取り組む具体的な行動計画として「しがの林業成長産業化アクションプラン」を策定し、林業の成長産業化に向けた取組を進めているところです。

一方、平成27年(2015年)に成立した「琵琶湖の保全及び再生に関する法律」では、琵琶湖が「国民的資産」と位置づけられたところであり、平成29年(2017年)3月にはこの法律に基づく「琵琶湖保全再生計画」を策定し、琵琶湖とその水源となる森林を守り活かしていく政策を本格的に進めていくこととしました。

こうした中で、令和4年(2022年)に開催する全国植樹祭は、本県の魅力や琵琶湖と森林とのつながりを活かした取組を全国、さらには世界に向けて発信する絶好の機会とし、滋賀ならではの特色ある有意義な大会にしてまいります。

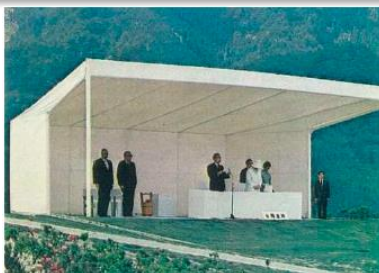
## 2 滋賀県における全国植樹祭の開催状況

滋賀県では、昭和50年(1975年)5月25日、栗太郡栗東町金勝山(現在の栗東市)において、天皇后両陛下をお迎えし、「水と緑のふるさとづくり」を大会テーマに、第26回全国植樹祭を開催しました。

この大会では、天皇陛下がヒノキの苗木を、皇后陛下がモミジの苗木をお手植えになるとともに、前日には坂田郡山東町夫馬(現在の米原市)において、天皇陛下がヒノキの種子を、皇后陛下がモミジの種子をお手播きになりました。

また、約1万人の参加者により、ヒノキ、マツ、ケヤキ、サクラなど14種類、約1万4千本の苗木が12ヘクタールの敷地に記念植樹されました。金勝山の式典会場は、現在、県有の森林公園「滋賀日産リーフの森<sup>※1</sup>(県民の森)」として県民等に親しまれています。

昭和50年(1975年)開催された第26回大会の様相



天皇陛下のおこたば



天皇陛下お手植え



皇后陛下お手植え

※1 滋賀日産リーフの森: 県立の森林公園「県民の森」のネーミングライツ(命名権)を滋賀日産自動車株式会社が取得し愛称としたもの。

### 3 開催理念

日本列島のほぼ中央に位置する滋賀県は、琵琶湖を中心に抱き、周囲を山々に囲まれた水と緑が豊かな県です。雄大な山々とその頂から眼下に広がる壮大な琵琶湖は、我が国最大の湖ならではのダイナミックな景観を形成するとともに、多種多様な彩りを見せる森林と碧く輝く琵琶湖は、一体となって四季折々の風景を作り出しています。



山々に降り注ぐ一滴は、やがて川となって田畑や里地を潤しながら、琵琶湖へと流れ込み、琵琶湖の豊かな生態系を育てています。県土の2分の1を占める滋賀の森林は、琵琶湖の水源として貴重な役割を果たすとともに、土砂の流出を防ぎ私たちの生活や財産を守るなど、様々な恩恵を与えています。また、400万年もの歴史を有する琵琶湖は、私たち滋賀県民と琵琶湖の下流域に住む京阪神1,450万人の暮らしを支える水源であるとともに、60種以上もの固有種を含む貴重な自然環境および水産資源の宝庫となっています。

森林と私たちの暮らしのかかわりを振り返ると、古代より、奈良や京都そして滋賀の壮麗な宮殿・社寺の建設には、滋賀の木材が多く利用されてきました。また、中世・近世・近代にかけて、人々は貴重な森林資源を巡り、争い、話し合い、力を合わせるというドラマを展開してきました。一方、県内には山村地域を中心に、森林と共存してきた木地師や杣人としての暮らし、山の神に対する信仰や祭礼など、多種多様な森林文化が根付いています。木を植え、育て、伐って利用し、また植えるという先人たちの取組は、まさに持続可能な森林づくりの礎であり、現在に暮らす私たちもしっかりと次の世代に受け継いでいく必要があります。また、「せっけん運動※1」をはじめ、湖岸の清掃やヨシ刈りなど琵琶湖の環境保全に熱心に取り組む姿勢や、琵琶湖の下流域で水を利用する人々を気遣う思いやりの精神は、滋賀の県民性として私たちの暮らしの中に定着しています。



森 - 川 - 里 - 湖のつながり

※1 せっけん運動：琵琶湖で1977年(昭和52年)5月に淡水赤潮が大規模に発生し、この淡水赤潮の原因の一つが合成洗剤に含まれているリンに起因していたことから、県民が主体となって合成洗剤の使用をやめ、粉石けんを使おうとした運動。

このような中、「琵琶湖の保全及び再生に関する法律」において、琵琶湖が「国民的資産」と位置づけられました。また、本県においては、「SDGs(持続可能な開発目標)※2」や琵琶湖版SDGs「マザーレイクゴールズ(MLGs)※3」の視点も活かしながら、持続可能な社会の実現を目指していくこととしました。これらを踏まえて、様々な主体との協働により、琵琶湖を保全・再生するとともに、その水源である森林を守り、育て、そして木材として積極的に使うことで、持続可能な滋賀の森林づくりを推進していくこととしています。

私たちは、第72回全国植樹祭の開催を通じて、県民一人ひとりが山や木に直接触れ、森林について考える機会を増やすとともに、森林・林業や農山村に対する意識醸成と県産木材の利用促進、将来を見据えた持続可能な森林づくりなど、県民が一丸となって森林を「守る」、「活かす」、「支える」ことで、これらを一体的に推進する「やまの健康」につながる本県らしい取組を進めていきます。

これらのことを踏まえ、以下の開催理念のもと、第72回全国植樹祭を開催します。

### 第72回全国植樹祭開催理念

私たちは、ふるさと滋賀の地域特性である「森－川－里－湖」のつながりと、いにしえより培われてきた「森林」、「びわ湖」、「人(暮らし)」のかかわりを再確認し、将来を見据えながら森林を守り、活かし、これらの取組を支えることで、碧(あお)く輝くびわ湖と健全で緑豊かな森林を、次の世代、その次の世代へと持続的につないでいきます。



Mother Lake  
Goals



滋賀県は持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています。

※2 SDGs(持続可能な開発目標):平成27年(2015年)9月の「国連持続可能な開発サミット」で採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に掲げられた17の目標から構成される人間、地球および繁栄のための行動計画。目標の一つである「陸の豊かさを守ろう」には、内陸淡水生態系の保全や森林の持続可能な管理等が掲げられている。

※3 マザーレイクゴールズ(MLGs):「琵琶湖」を切り口とした2030年の持続可能な社会へ向けた目標(ゴール)。

令和3年7月1日、「びわ湖の日」40周年の記念すべき日に、この理念に賛同する多様な主体が集う「マザーレイクゴールズ賛同者会議」の場にて、「マザーレイクゴールズ(MLGs)アジェンダ」が策定。「琵琶湖版のSDGs」として、本県では、2030年の環境と経済・社会活動をつなぐ健全な循環の構築に向けて取り組んでいる。

4 開催方針 ～ CO<sub>2</sub>ネットゼロの大会を目指して ～

- (1) 全国植樹祭を通じて、開催理念や本県の魅力等を最大限に発信します。
- (2) 県民総ぐるみで全国植樹祭を盛り上げ、全国から参加される皆さんを「おもてなしの心」でお迎えします。
- (3) 全国植樹祭の開催にあたっては、経費の節減に努めながらも、多様な主体と連携しながら、県民の皆さんと森林に関わる人々の心に残る、滋賀らしい大会となるよう努めます。
- (4) 会場整備や大会運営にあたっては、「しがCO<sub>2</sub>ネットゼロムーブメント※1」や「滋賀プラスチックごみゼロ・食品ロス削減宣言※2」を踏まえ、環境に最大限配慮しながら、CO<sub>2</sub>ネットゼロ（CO<sub>2</sub>排出量実質ゼロ）の大会を目指します。
- (5) 全国植樹祭の開催を契機とし、開催後も県民総ぐるみで将来を見据えた持続可能な森林づくりを目指していけるよう、SDGs（持続可能な開発目標）やマザーレイクゴールズ（MLGs）の視点を活かした大会とします。

## 第72回全国植樹祭しが2022「環境に配慮した取組事例」

【凡例】 ◆CO<sub>2</sub>ネットゼロ  
★プラスチックごみゼロ・食品ロス削減

- 会場整備にあたっては、既存の施設・設備を最大限に活用するとともに、できるだけ自然環境に負荷を与えないように配慮します。
- 大会で使用する資材等については、持続可能な森林経営により生産された県産木材を積極的に活用します。【◆】
- 植樹に使用する樹種については、本県の気候風土や立地条件に適した樹種を選定するとともに、県内で採取した種子等により育成した苗木を使用するなど生態系への影響に配慮します。
- 植樹の際には、琵琶湖の水草を原料とする堆肥や浄水場で発生した土を活用することで、森林と琵琶湖のつながりや環境保全を意識しながら資源の循環利用に努めます。
- 廃棄物の3R（リデュース、リユース、リサイクル）の徹底、とりわけ大会参加者への物品の提供については、ワンウェイ（使い捨て）プラスチック包装・容器等の使用を極力なくします。【★◆】
- 食べ残しをなくす適量なお弁当の提供や、更新時期を迎えた災害時用備蓄飲料の活用等により、食品ロスの削減を図ります。【★◆】
- 大会参加者に公共交通機関利用を呼び掛けるとともに、大会運営時における低燃費車両等の利用やエコドライブの推進等により、移動時における環境負荷の低減を図ります。【◆】
- 使用エネルギー削減等によるCO<sub>2</sub>の排出抑制や、植樹活動によるCO<sub>2</sub>吸収量の確保、カーボンクレジット制度の活用等により、CO<sub>2</sub>ネットゼロ（CO<sub>2</sub>排出量実質ゼロ）の大会を目指します。【◆】

※1 滋賀県では、国内外の動きと協調し、2050年までに二酸化炭素の排出量を実質ゼロにすることを旨として、令和2年1月に「しがCO<sub>2</sub>ネットゼロムーブメント」キックオフ宣言を行い、県民、事業者等多様な主体と連携した取組を進めている。

※2 滋賀県および滋賀県買入物ごみ・食品ロス削減推進協議会は、ごみを出さないライフスタイルへの転換を目指して、県民、事業者、団体、行政等が役割を分担し、互いに連携・協力しながら、循環型社会の形成に向けた取組を積極的に行い、SDGsの目標達成に貢献していくことを目的として、令和元年8月に「滋賀プラスチックごみゼロ・食品ロス削減宣言」を行った。

## 5 大会テーマ

# 木を植えよう びわ湖も緑のしずくから

全国から応募があった1,730点の作品の中から選定しました。

- 作者：やすおか なおき 保岡 直樹さん（東京都世田谷区）
- 制作意図： 山の木の葉のひとしずくが集まって川となり、清き流れは大地をうるおし、豊かな琵琶湖をはぐくむ。そんな大自然の循環を「緑のしずく」に例えています。“輝く水も、植樹から”という思いを作品にしました。

## 6 シンボルマーク

全国から応募があった393点の作品の中から選定しました。

- 作者：まつおか ひでお 松岡 英男 さん（山形県山形市）
- 制作意図： 豊かな緑に包まれて、琵琶湖（県）との一体感、若葉がすくすくと伸びる植樹の喜びと期待感を、県民の喜び顔に象徴して、次世代と次の世代へとよろこびの輪（和）をひろげ繋いでまいります。



## 7 大会ポスター原画

県内の小学校・中学校・高等学校等から応募があった841点の作品の中から選定しました。

- 作者：なかがわ あい 中川 甘苺 さん（滋賀県立栗東高等学校 1年）  
※令和元年度現在
- 画題： 未来につなぐ
- 制作意図： これからも、老若男女を問わず、この先の未来に緑をつないでいきたいという願いを込めました。



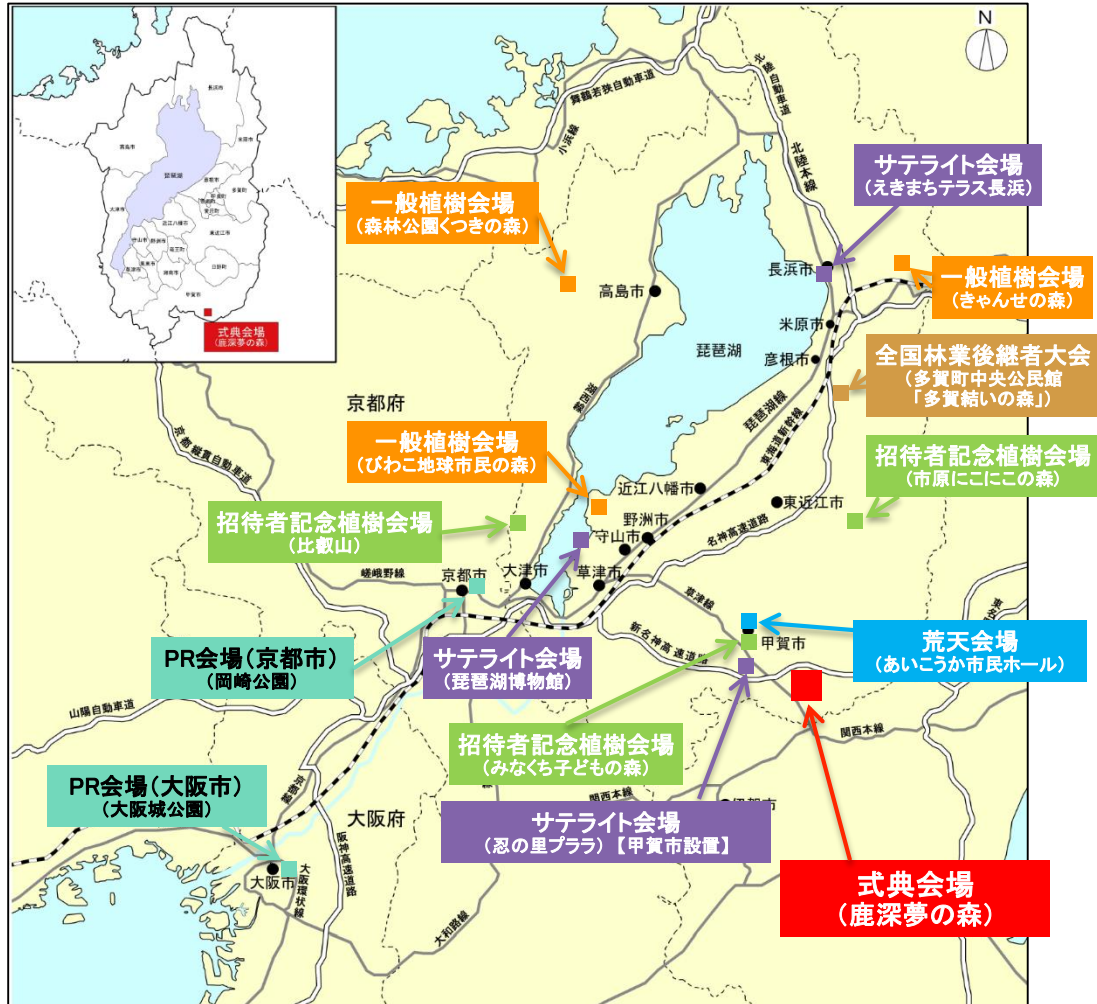


## 8 開催会場

### ● 開催会場位置図

<凡例>

- 式典会場
- 招待者記念植樹会場
- 荒天会場
- サテライト会場
- 一般植樹会場
- PR会場
- 全国林業後継者大会



#### (1) 式典会場

式典会場では、式典行事、天皇皇后両陛下によるお手植え・お手播き行事などを実施します。なお、暴風雨等の荒天時は、荒天会場で規模を縮小して実施します。

かふか ゆめ もり

#### ◆ 鹿深夢の森 (甲賀市甲賀町大久保507番地2)

琵琶湖の水源地であり、かつ、林業の盛んな地域に位置する「鹿深夢の森」は、扇形の多目的芝生広場を園内中央に有するとともに、敷地内には甲賀図書館やかふか生涯学習館、子育て世代包括支援センター「ここも〜り」なども併設されており、大人から子どもまで幅広く活用できる施設として市民に親しまれています。



## (2) 招待者記念植樹会場

県内外の招待者が記念植樹を行う植樹会場として、式典会場内や近隣地をはじめ、県内各地に設置します。

会場名	所在地
鹿深夢の森(式典会場併設)	甲賀市
比叡山	大津市
みなくち子どもの森	甲賀市
市原にこにこの森	東近江市

## (3) サテライト会場等

県民をはじめより多くの方々と開催理念を共有し、全国植樹祭の開催効果を高めるため、県内各地にサテライト会場や一般植樹会場を設置するとともに、琵琶湖・淀川流域の各地にPR会場を設置します。

区分	会場名	所在地
サテライト会場 ※大会当日に開催	えきまちテラス長浜	長浜市
	琵琶湖博物館	草津市
	忍の里プララ 【甲賀市設置】	甲賀市
一般植樹会場 ※大会当日に開催	びわこ地球市民の森	守山市
	森林公園くつきの森	高島市
	きゃんせの森	米原市
PR会場 ※琵琶湖・淀川流域で 大会前に開催	岡崎公園	京都府京都市
	大阪城公園	大阪府大阪市

## 9 主催

公益社団法人国土緑化推進機構  
滋賀県

## 10 開催規模

第72回全国植樹祭は県内外から参加する招待者、協力者・スタッフ等を含め、3,000人程度の規模で開催します。ただし、荒天時は縮小します。

参加者区分	参加予定者数	備考
県外招待者	200人	国関係者、被表彰者、各都道府県招待者等
県内招待者	800人	県議会議員、市町関係者、森林・林業・緑化関係者、実行委員会委員、公募招待者等
本部員・協力員	2,000人	実施本部員、協力員、出演者、運営ボランティア等
合計	3,000人	

※新型コロナウイルスの感染状況によっては、今後開催規模を変更する可能性があります。

## 11 開催日

令和4年(2022年) 6月 5日 (日)

## 12 新型コロナウイルス感染症対策

新型コロナウイルス感染症の感染状況を見据え、安全かつ安心して参加いただける大会とするため感染症対策に万全を期した大会となるよう主に以下の点に留意するとともに、コロナ禍にあってもオンラインの活用を検討する等、創意工夫を凝らした大会となるよう準備を進めます。

- ・開催規模を縮小することで、3密を避け、人と人との距離を十分に確保します。
- ・参加者のマスクの着用、各所にアルコール消毒剤を設置し手指消毒の実施を徹底します。
- ・大編成の音楽隊による演奏は、事前に録音した音源を活用します。
- ・植樹行事では、人と人との直接的な接触を避けるよう、用具の引き渡し方法等を検討します。
- ・飲食を伴うレセプションは実施しないこととします。
- ・おもてなし広場での飲食コーナーを設置しないこととします。

## 1 基本的な考え方

式典行事は、次の事項を基本として実施します。

- 開催理念を共有するとともに、参加者の心に残る植樹祭とします。
- 式典は、簡素化を図りながらも、厳粛で品格があるものとします。
- 県内外、子どもや高齢者、障害者など、できるだけ多くの方々や、大会に賛同いただいた企業・団体等が参加できるよう配慮します。
- 大編成の音楽隊による演奏は、事前に録音した音源を活用します。
- 式典の演出は、人と人の距離を十分に確保して行います。

## 2 式典演出計画

式典の構成は、プロローグ、記念式典、エピローグの3部構成とします。

区分	演出テーマ	内容
プロローグ	【これまでを知る】 「森林・びわ湖・人のハーモニー」	400万年前から続くびわ湖と森林、そして県民たちのかかわりを、県民パフォーマンスで情緒豊かに表現
記念式典	【今、誓う】 「～ひとしずくから始まる～ びわ湖水源の森林づくりへの誓い」	森-川-里-湖のつながり、森林・びわ湖・人のかかわりを讃え、びわ湖を育む水源の森林づくりへの県民の誓い
エピローグ	【未来へつなぐ】 「次世代につながる森林に思いをはせて」	次世代につながる森林づくりへの思いを、滋賀県の未来を担う若い世代と今活動している県民たちが未来へつなぐ大フィナーレ

## 3 式典運営計画

式典の運営は、次の事項を基本とし、滋賀県らしさを感じていただける運営を行います。

- 参加者の安全性、快適性に十分配慮し、緑の少年団やボランティア等の方々の協力を得ながら行います。
- 司会者、アシスタント、式典音楽隊等の出演者等については、地元団体をはじめ県内の関係団体等の積極的な協力と参加を得て編成します。



参考例：第70回全国植樹祭愛知大会

## 4 式典進行プログラム

## (1) プログラム

時間	区分	プログラム	進行内容
	イントロダクション	来場者の歓迎、滋賀県の紹介等	
45分程度	プロローグ	プロローグアトラクション	●演出テーマ【これまでを知る】 「森林・びわ湖・人のハーモニー」
		感謝状の贈呈	「大会テーマ」、「シンボルマーク」、「大会ポスター原画」感謝状贈呈
		記念切手の贈呈	国土緑化運動記念切手贈呈
		記念式典の案内	
60分程度	記念式典	天皇皇后両陛下 御着席	
		開会のことば	国土緑化推進機構副理事長
		三旗掲揚・国歌斉唱	
		主催者挨拶	大会会長(衆議院議長)、滋賀県知事
		天皇陛下のお言葉	
		表彰	緑化功労者などへの感謝の表彰
		苗木の贈呈	緑の少年団から、農林水産大臣、環境大臣等に苗木を贈呈
		天皇皇后両陛下お手植え・お手播き代表者記念植樹	
		大会テーマの表現	●演出テーマ【今、誓う】 「～ひとしずくから始まる～ びわ湖水源の森林づくりへの誓い」
		大会宣言	国土緑化推進機構理事長
		リレーセレモニー	次期開催県への引き継ぎ (大会シンボル「木製地球儀」の受け渡し)
		閉会のことば	滋賀県議会議長
	天皇皇后両陛下 御退席		
30分程度	エピローグ	エピローグアトラクション	●演出テーマ【未来へつなぐ】 「次世代につながる森林に思いをはせて」

## (2) 登壇者一覧

No.	登壇者名	登場場面等
1	大会会長(衆議院議長)	①天皇皇后両陛下 御到着・御徒歩・御着席 ②主催者挨拶 ③表彰(国土緑化運動・育樹運動ポスター原画コンクール) ④天皇皇后両陛下 御退席・御徒歩・御出発
2	(公社)国土緑化推進機構理事長	①天皇皇后両陛下 御到着・御徒歩・御着席 ②天皇皇后両陛下 お手植え・お手播き ③大会宣言 ④天皇皇后両陛下 御退席・御徒歩・御出発
3	滋賀県知事	①感謝状贈呈 ②記念切手贈呈 ③天皇皇后両陛下 御到着・御徒歩・御着席 ④主催者挨拶 ⑤表彰(滋賀県緑化功労者等) ⑥天皇皇后両陛下 お手植え・お手播き ⑦リレーセレモニー ⑧天皇皇后両陛下 御退席・御徒歩・御出発
4	農林水産大臣	①表彰(緑化功労者) ②苗木の贈呈
5	文部科学大臣	①表彰(全日本学校関係緑化コンクール)
6	環境大臣	①苗木の贈呈
7	(公社)国土緑化推進機構副理事長	①開会のことば
8	岩手県知事	①リレーセレモニー・次期開催県知事挨拶
9	滋賀県議会議長	①閉会のことば
10	甲賀市長	①開催市長挨拶
11	苗木の贈呈代表者 ○琵琶湖・淀川流域の府県関係者 ○「森-川-里-湖」代表者 ・滋賀県森林組合連合会代表理事会長 ・滋賀県河川漁業協同組合連合会代表理事会長 ・滋賀県農業協同組合中央会代表理事会長 ・滋賀県土地改良事業団体連合会会長理事 ・滋賀県漁業協同組合連合会代表理事会長	①苗木の贈呈
12	受賞者(表彰) ・国土緑化運動・育樹運動ポスター原画コンクール 入賞者代表 ・緑化功労者代表 ・全日本学校関係緑化コンクール入賞校代表 ・滋賀県緑化功労者等代表	①表彰
13	受賞者(感謝状) ・大会テーマ ・大会シンボルマーク ・大会ポスター原画	①感謝状贈呈
14	日本郵便株式会社 代表取締役社長	①記念切手贈呈

## (3) 出演者一覧

項目	人数	内訳	
総合司会	1名	○アナウンサー	
手話通訳・要約筆記	6名	○滋賀県立聴覚障害者センター	
式典進行役	3名	○滋賀県高等学校文化連盟(放送部会) ・学校法人聖パウロ学園光泉カトリック高等学校	
式典アシスタント	24名	○滋賀県立大津商業高等学校 ○滋賀県立八幡商業高等学校	
式典音楽隊(吹奏楽)	72名	○滋賀県高等学校文化連盟(吹奏楽部会) ・滋賀県立甲西高等学校 ・滋賀県立石部高等学校	
式典音楽隊(合唱)	84名	○滋賀県高等学校文化連盟(合唱部会) ・滋賀県立膳所高等学校 ・滋賀県立石山高等学校 ・滋賀県立水口東高等学校 ・滋賀県立八日市高等学校 ・滋賀県立日野高等学校 ・滋賀県立愛知高等学校 ・滋賀県立能登川高等学校 ・学校法人延暦寺学園比叡山高等学校 ・学校法人聖パウロ学園光泉カトリック高等学校 ・学校法人ヴォーリズ学園近江兄弟社高等学校 ・学校法人幸福の科学学園関西高等学校 ・学校法人MIHO美学院中等教育学校	
式典 出演者	国歌斉唱	8名	○びわ湖ホール声楽アンサンブル
	よし笛演奏	4名	○よし笛奏者 近藤ゆみ子 他
	介添え	78名	○緑の少年団 ・大津緑の少年団 ・近江八幡市緑の少年団 ・伴谷小緑の少年団 ・水口小緑の少年団 ・綾野小緑の少年団 ・大野小緑の少年団 ・大原緑の少年団 ・佐山緑の少年団 ・甲南第二小緑の少年団 ・甲南中部小緑の少年団 ・雲井小緑の少年団 ・朝宮小緑の少年団 ・信楽小緑の少年団 ・野洲キッド緑の少年団 ・新旭フラワーパトロール ・竜王町緑の少年団 ・大滝緑の少年団
	三旗掲揚		・田根みどりの少年団 ・守山市緑の少年団 ・柏木小緑の少年団 ・貴生川小緑の少年団 ・伴谷東小緑の少年団 ・土山小緑の少年団 ・油日緑の少年団 ・甲南第一小緑の少年団 ・甲南第三小緑の少年団 ・希望ヶ丘小緑の少年団 ・小原小緑の少年団 ・多羅尾小緑の少年団 ・甲賀市内緑の少年団(卒団生)
	苗木の贈呈		・安曇川緑の少年団 ・永源寺緑の少年団 ・多賀kids緑の少年団
	大会宣言		○日本ボーイスカウト滋賀連盟 ○一般社団法人ガールスカウト滋賀県連盟
	大会宣言		○ナビゲーター ・西川貴教 ・安蘭けい
	イントロダクション プロローグ アトラクション 大会テーマの表現 エピローグ アトラクション	1,028名	○水口まつり保存振興会 ○ストーリーテラー(子役) 中森笑菜 ○滋賀洋舞協会 ○大津児童合唱団 ○メッセージ発信者 ・東近江市永源寺森林組合 水野扶美 ・滋賀県立大学 多賀木匠塾 ・彦根市立鳥居本小学校 ○甲賀市内緑の少年団 ○KOUGA彩風舞人 ○甲賀忍玉太鼓団 ○活動発表者 ・漁民の森(中主漁業協同組合・大篠原生産森林組合・小堤生産森林組合) ・やまの健康(明日の走井を考える会・金勝生産森林組合・栗東市観光協会) ・森のようちえん(一般社団法人びわ湖の森のようちえん しが自然保育ネットワーク)
	合計	1,308名	

※新型コロナウイルスの感染状況によっては、今後人数規模を変更する可能性があります。

## (4) 式典演出の概要

## イントロダクション

森と湖に育まれた滋賀の豊かな自然・文化・歴史をナレーションと映像で紹介し、祭囃子のライブパフォーマンスで招待者を歓迎。



## 【プロローグアトラクション】

## 【これまでを知る】

## 県民創作劇「森林・びわ湖・人のハーモニー」

びわ湖から森林へと理解を広め、その関係性から「森林を守る重要性」を対話形式による語りと映像、創作ダンスを通して提言。

## ● シーン1 みもりとうおーたんの出会い

小学5年生「みもり」と、びわ湖の水の妖精「うおーたん」が、森林とびわ湖の関わりを語り始めます。



## ● シーン2 昔のびわ湖と森林のパフォーマンス

古代より自然と深くつながり、育まれてきた人々の暮らしや文化、森林とびわ湖・森林と人・びわ湖と人の関わりを表現します。



## ● シーン3 元気がなくなるびわ湖

人の暮らしが便利になった反面、びわ湖で起こった環境汚染などの問題を表現します。

## ● シーン4 元気がなくなる森林

人との関わりの変化による森林の荒廃や、手入れ不足、野生鳥獣による被害などを表現します。

## ● シーン5 県民の気づきと蘇るびわ湖・森林

県民が力をあわせて行った、びわ湖と森林の保全活動を通して、元気を取り戻していく様子を表現します。



## ● シーン6 森林とびわ湖と人のハーモニー

森林とびわ湖、人がつながっている様子を、演技と合唱で表現します。

## 式典

天皇皇后両陛下によるお手植え・お手播き、各種表彰、苗木の贈呈、大会宣言、次期開催県へのリレーセレモニー等を実施。



お手植え



お手播き



各種表彰



リレーセレモニー



## 【記念式典 大会テーマの表現】

【今、誓う】

## 「～ひとしづくから始まる～ びわ湖水源の森林づくりへの誓い」

森林を守り、活かし、それを支える県民の誓いとして「未来への森林との約束」を発信し、パフォーマンスで「木を植えよう びわ湖も緑のしづくから」を表現。

## ● シーン1 森林・びわ湖・人の関わりを讃える詩の朗読

ナビゲーターが、「びわ湖」そして「森林」に問いかけるように詩を朗読し、最後に会場の招待者へ、未来への誓いを投げかけます。

《ナビゲーター》



西川 貴教 さん



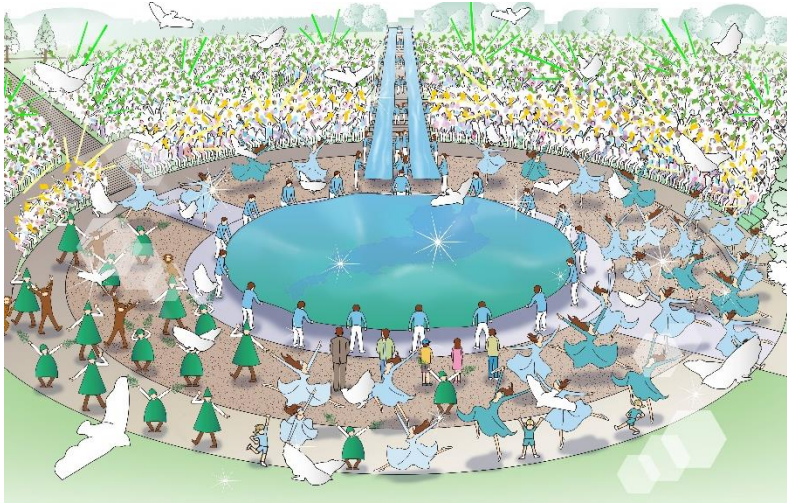
安蘭 けい さん

## ● シーン2 県民からの水源の森林づくりリレーメッセージ発信

ナビゲーターへのアンサーメッセージとして、未来を担う各世代から次世代へつなぐ森林づくりのメッセージを発表します。

## ● シーン3 みんなでつくる滋賀のつながる「森一川一里一湖」！

びわ湖のはじまりが森林であることをパフォーマンスで表現し、未来への誓いします。



## 【エピローグアトラクション】

【未来へつなぐ】

## 次世代につながる森林に思いをはせて

碧く輝くびわ湖と健全で緑豊かな森林を、次世代につなぐ決意、思いを響かせる感動のグランドフィナーレ。

## ● シーン1 次世代の滋賀の輝けるエネルギー！！

県内の和太鼓グループとダンスチームのパフォーマンスで、滋賀のエネルギーを表現します。

## ● シーン2 次世代につながる森林づくり・木づかい活動発表

「森林の未来」を見据えて活動する団体の発表を行います。



(漁民の森づくり)



(やまの健康)



(森のようちえん)

## ● シーン3 次世代へつなぐ！ 生命育む水源の森林づくり！！

「琵琶湖周航の歌」が流れ、出演者と会場が一体となって開催理念の思いを共有します。



## 1 基本的な考え方

- 将来目指すべき森林の姿をイメージした上で、本県の気候風土や立地条件に適した樹種を選定します。
- 植樹用の苗木は、県内で採取した種子等により育成したものをを使用することを基本とします。また、「苗木のホームステイ」により、苗木づくりの段階から県内および琵琶湖・淀川流域の一般の方や企業・団体等の皆さんにも参加していただきます。
- 県内の小学校4年生を対象とした森林環境学習「やまのこ」事業とも連携し、苗木を育成してもらう「苗木のスクールステイ」を実施します。
- 植樹の際には、琵琶湖の水草を原料とする堆肥や浄水場で発生した土を活用することで、森林と琵琶湖とのつながりや琵琶湖を取り巻く環境保全への取組、資源の有効活用の大切さを全国に発信します。
- 県民の皆さんとの協働による森林づくり活動の拡大につなげていく契機とするため、緑の少年団や植樹指導を行うボランティアをはじめ、子どもや高齢者、障害者など、できるだけ多くの方々が参加できるよう配慮します。

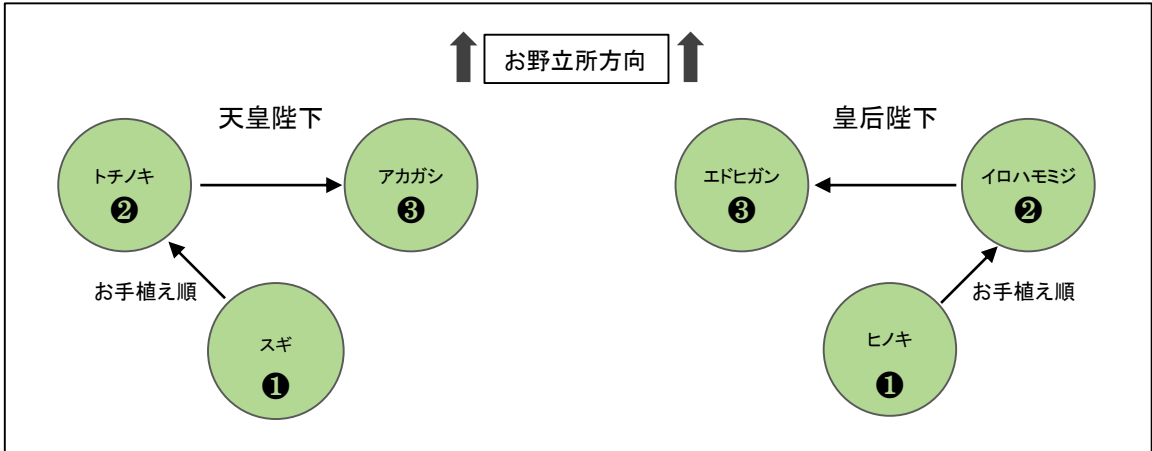
## 2 お手植え計画

- 天皇皇后両陛下のお手植えは、本県にゆかりのある樹種のうち、それぞれ3種とします。
- お手植えされた記念樹は、第72回全国植樹祭の開催を記念し、琵琶湖を育む豊かな森林づくりのシンボルとして、大切に管理・育成していきます。
- 感染症対策のため、お手植え用具の受渡し方法等について検討します。

### ■ お手植え樹種

天皇陛下	<b>スギ(近江さわやか杉)</b> 滋賀県の林業における主要樹種 	<b>トチノキ</b> 滋賀県北部に巨木林が存在する樹種 	<b>アカガシ</b> 曳山の材料として使われる樹種 
	<b>ヒノキ</b> 第26回大会のお手植え・お手播き樹種 	<b>イロハモミジ</b> 滋賀県の「県の木」 	<b>エドヒガン</b> 春に紅色や淡紅色の美しい花をつける樹種 
	皇后陛下		

■ お手植え樹種配置図



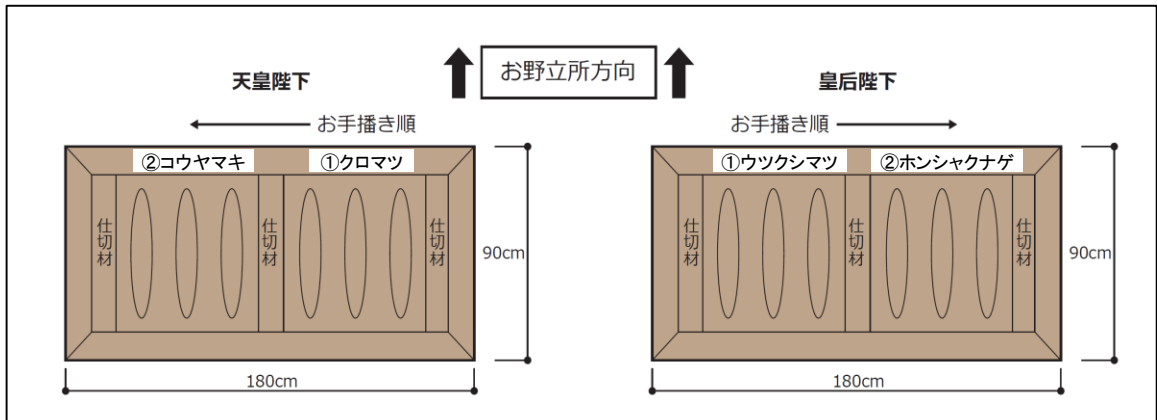
3 お手播き計画

- 天皇皇后両陛下のお手播きは、滋賀県の森林にゆかりのある樹種のうち、お手播き箱へそれぞれ2種の播種とします。
- お手播きされた種子から養成した苗木は、滋賀県が管理・育成し、県内の公共施設等に「記念樹」として配布します。
- 感染症対策のため、お手播き用具の受渡し方法等について検討します。

■ お手播き樹種

<p>天皇陛下</p>	<p><b>クロマツ</b> 滋賀県の琵琶湖岸に見られる樹種</p> 	<p><b>コウヤマキ</b> 琵琶湖水運の文化と繋がりのある樹種</p> 
<p>皇后陛下</p>	<p><b>ウツクシマツ</b> 滋賀県に自生する形の珍しい樹種</p> 	<p><b>ホンシャクナゲ</b> 滋賀県の「郷土の花」</p> 

■ お手播き樹種配置図



4 代表者記念植樹計画

- 代表者は、天皇皇后両陛下の2本目のお手植えと同時に記念植樹を行います。
- 場所は、式典会場内で行うものとします。
- 代表者記念植樹の樹種は、天皇皇后両陛下のお手植えと同じ樹種とします。
- 感染症対策のため、植樹用具の受渡し方法等について検討します。

5 招待者記念植樹計画

- 招待者記念植樹は、県内外からの招待者が、1人1本以上の記念植樹を行います。
- 招待者は大会当日の式典前に植樹を行います。
- 滋賀県の気候風土や会場特性に適した樹木を植樹します。

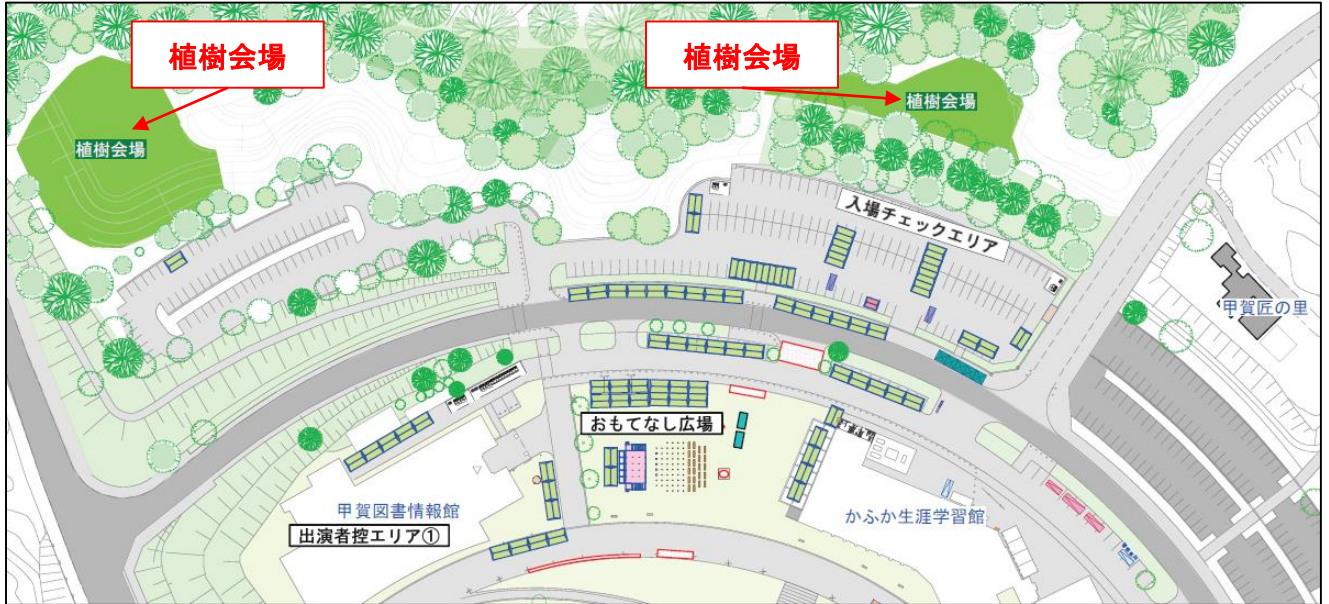
<招待者記念植樹樹種>

会場名	所在地	主な樹種	
鹿深夢の森 (式典会場併設)	甲賀市	【循環型林業】 スギ(近江さわやか杉)、ヒノキ	計2種
比叡山	大津市	【循環型林業】 アカマツ(抵抗性)、クロマツ	計2種
みなくち子どもの森	甲賀市	【森林環境学習】 オニグルミ、クリ、アベマキ、カシワ、クヌギ、コナラ、 ナラガシワ、エノキ、ケヤキ、ムクノキ、カツラ、タムシバ、 ホオノキ、クロモジ、ノリウツギ、ウツギ、センダン、 キハダ、ウリハダカエデ、メグスリノキ、ムクロジ、エゴノキ、 タニウツギ	計23種
市原にこにこの森	東近江市	【里山再生】 オニグルミ、ハンノキ、クヌギ、コナラ、カツラ、ホオノキ、 クロモジ、ノリウツギ、ナナカマド、キハダ、イロハモミジ、 ウリハダカエデ、ヤブムラサキ、ガマズミ、コバノガマズミ	計15種

※苗木総本数 約3,000本

## 6 植樹会場整備計画

### (1) 鹿深夢の森(式典会場併設)



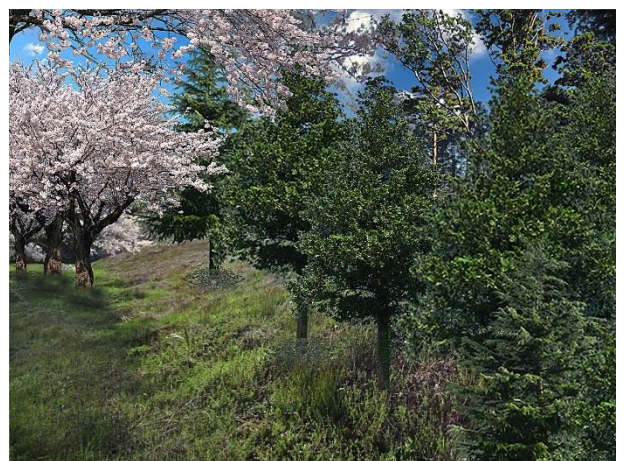
【現 状】 式典会場の北側に位置する草地で、樹木の生育はほとんど見られない。

【整備方針】 滋賀県産木材の生産と利用を行っていくための、循環型林業の森林を目指す。

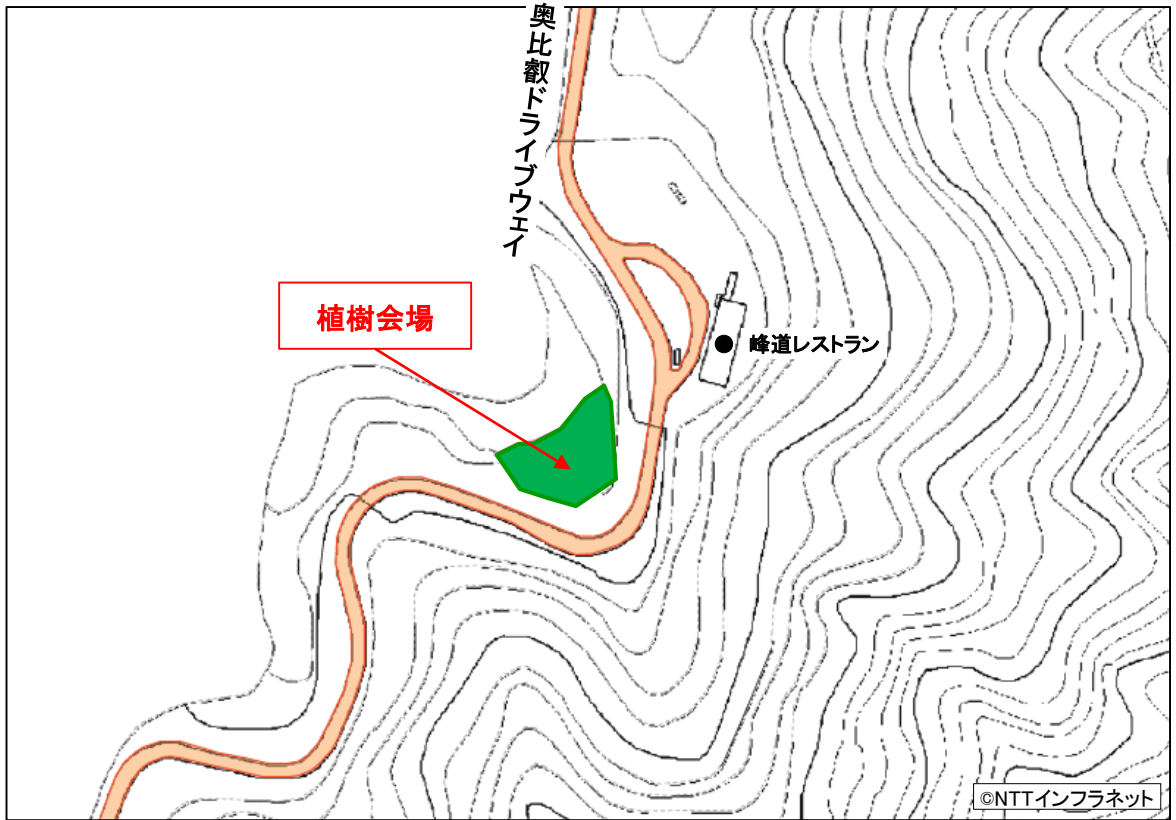
【現況】



【将来イメージ図】



(2) 比叡山



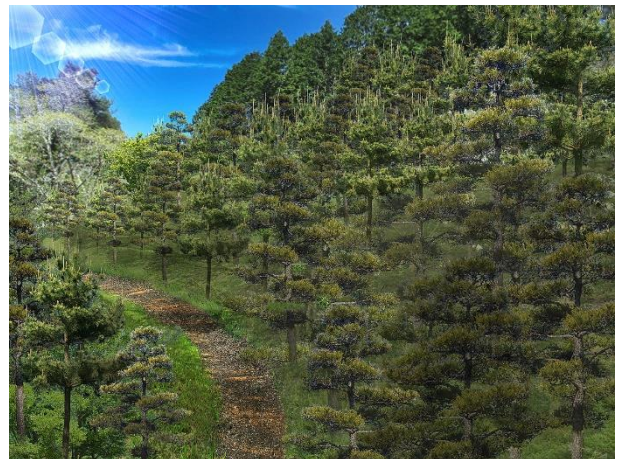
【現 状】 比叡山内の伐採跡地でササが生育しており、樹木の生育が見られない箇所もある。

【整備方針】 滋賀県産木材の生産と利用を行っていくための、循環型林業の森林を目指す。

【現況】



【将来イメージ図】



(3) みなくち子どもの森



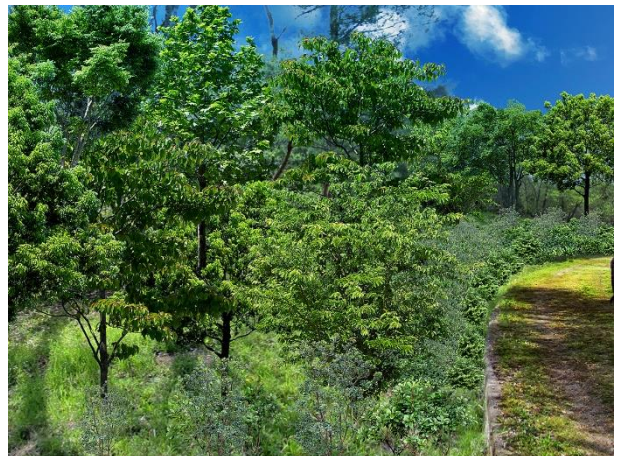
【現 状】 公園内散歩コース沿いの草地で、樹木の生育が見られない箇所もある。

【整備方針】 滋賀県の里山と人の暮らしを、子どもや公園利用者に体感してもらう、環境学習の森林を目指す。

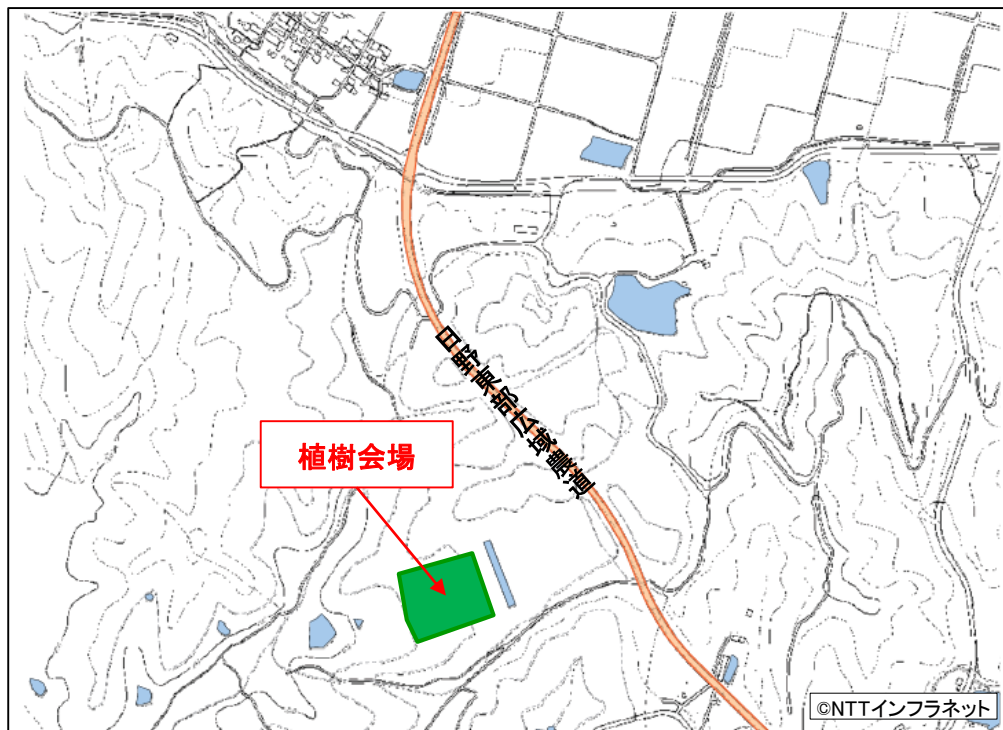
【現況】



【将来イメージ図】



## (4)市原にこにこの森



【現 状】 残土処分跡地の未利用地であり、樹木の生育はほとんど見られない。

【整備方針】 無立木地となっている箇所を緑化し、里山を再生させるための森林を目指す。

【現況】



【将来イメージ図】





## 1 基本的な考え方

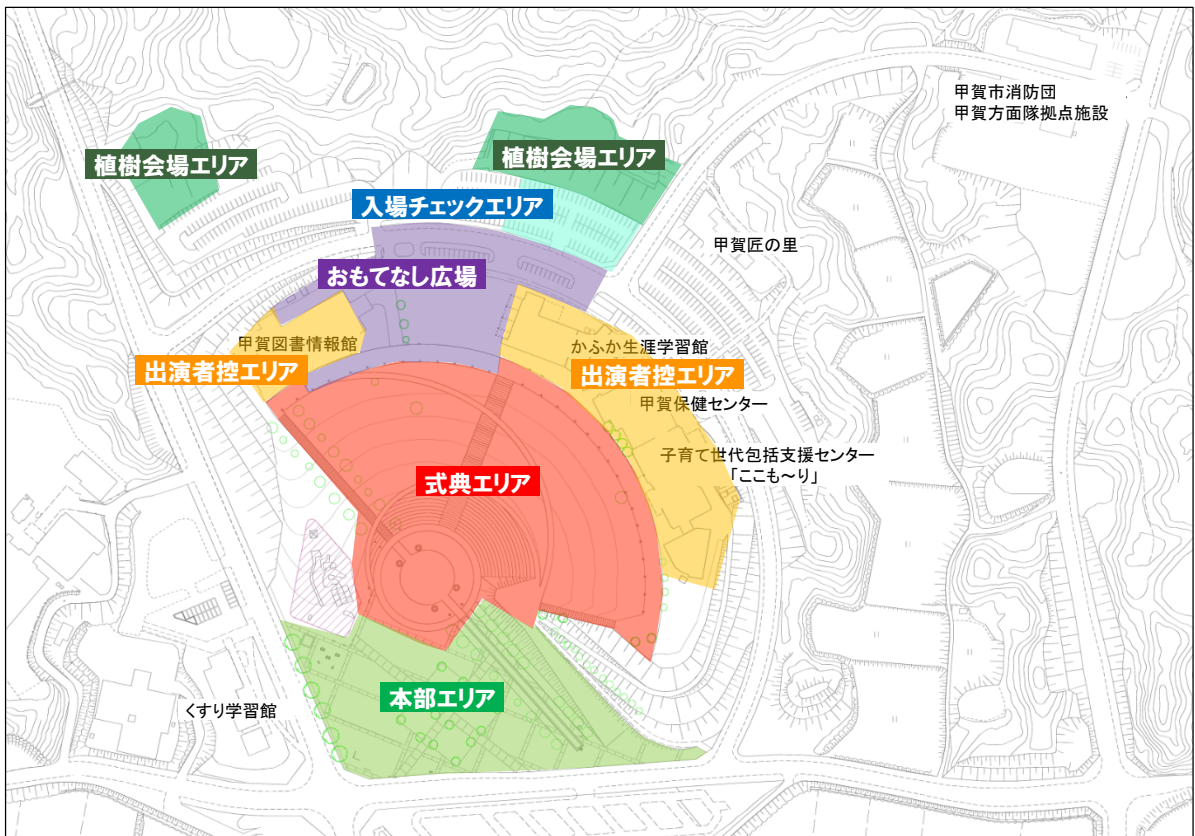
- 会場整備にあたっては、できるだけ自然環境に負荷を与えないように配慮するとともに、経費節減を図ることを基本とします。
- 会場に設置する仮設構造物等には、持続可能な森林経営により生産された県産木材を積極的に使用するとともに、再生資源の活用など、環境負荷の少ない会場整備に努めます。
- 高齢者や障害者をはじめ、すべての参加者が安全で快適に参加できるよう、ハード面はもちろんのこと、情報アクセシビリティの観点なども含めて、ユニバーサルデザインを意識した会場整備に努めます。
- 感染症対策のため、招待者席、出演者控室等は、人と人の距離を十分に確保できるよう計画します。

## 2 施設配置図・イメージ図

### (1) 式典会場の配置

会場は、式典エリア、本部エリア、おもてなし広場、出演者控エリア、入場チェックエリア等にゾーン分けします。

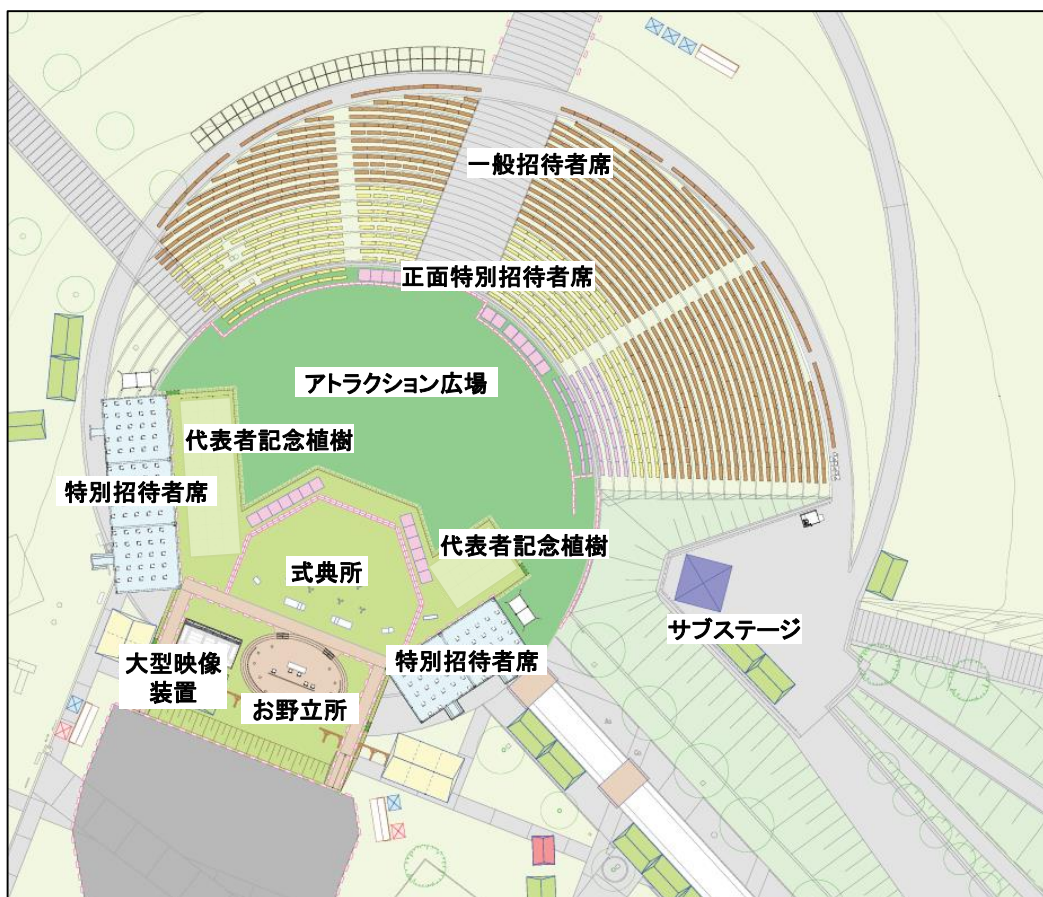
会場レイアウトや構造物等については、周辺の景観との調和や、安全性、機能性を考慮するとともに、県産木材を積極的に使用します。



(2) 式典会場のイメージ



(3) 式典会場配置図



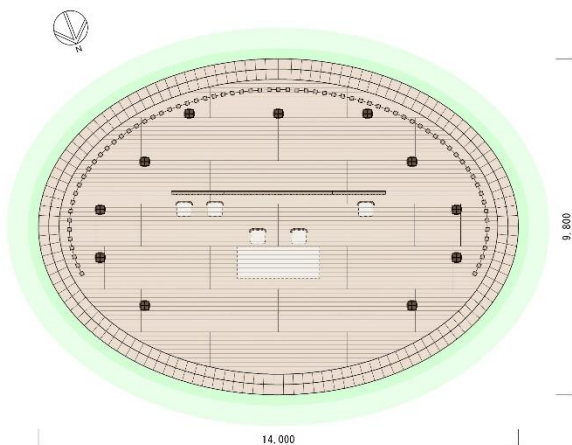
### 3 主要施設計画

#### (1) お野立所

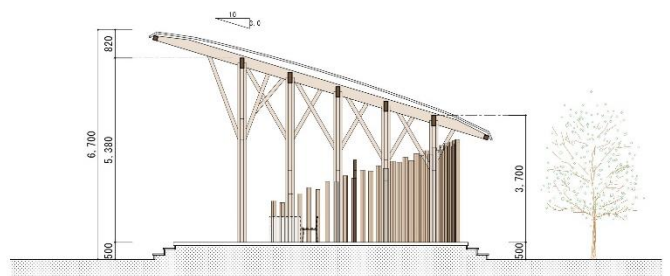
- 円形の床は琵琶湖をイメージし、柱部分は樹木を、屋根は樹冠の広がり表現することにより、森と湖のつながりや、「滋賀らしさ」を感じさせるデザインとします。
- びわ湖材産地証明制度に基づく県産木材を使用することで、びわ湖材の普及啓発を図るとともに、床等にびわ湖材のCLT(直交集成板)を使用します。
- 経費の節減に努めるとともに、大会終了後には、部材として再利用することを考慮して制作します。



お野立所イメージ



【平面図】



【側面図】

#### (2) 仮設工作物

- 特別招待者席等の仮設工作物には、県産木材を使用し、安全性、経済性および周辺の景観に配慮したものとします。

## 4 案内・誘導計画

- 招待者が安全かつスムーズに式典や植樹行事などに参加することができ、各施設等への移動に支障がないよう、各所に案内サインを設置します。
- 案内サインの材料には、県産木材のほか、リユース可能な製品の活用等、環境に配慮した資材の使用に努めます。
- 案内サインは、ユニバーサルデザインに留意し、招待者が見やすい色彩、大きさにするとともに、見やすい位置、高さに設置します。また、ピクトサイン(絵文字)を使用する等、招待者が一目で分かるようなサインとするほか、視覚障害者向けに音声案内設備を設置するなど、障害等の特性に応じた方法で案内できるよう対応します。
- 外国の方の参加にも配慮し、状況に応じて外国語で表記します。

## 5 電気・給排水・通信設備計画

### (1) 電気設備計画

会場内で使用する電源は、主に仮設電源(ジェネレーター等)を設置し対応します。

### (2) 給排水計画

給水は、給水タンクを設置し、排水は適正に処理します。

### (3) 仮設トイレ計画

式典会場、おもてなし広場、植樹会場などに適正な数量を設置するとともに、衛生面にも十分に配慮します。

また、混雑を避けるため、状況に応じた誘導を行います。

### (4) 通信設備計画

運営を円滑に行うため、携帯電話やトランシーバーなどの無線通信機器を適正に配置します。

## 6 飾花計画

- 会場内の飾花は、県内農業高校やフラワー・ブラボー・コンクール参加校、特別支援学校、地元団体等が育てる花を使用し、会場の雰囲気を引き立てるとともに、招待者の安全かつ円滑な動線が確保できるよう配置します。
- お野立所に設置するフラワーアレンジメントは県内農業高校生が担当するほか、信楽の高校陶芸部による信楽焼の花器を使用し、県の産業・伝統文化をPRします。
- 会場内に設置する飾花のプランターカバーには、県産木材を活用するとともに、関連イベント等の機会を通じて子どもたちをはじめとする参加者と一緒に制作することで、開催機運の醸成を図ります。
- 滋賀県をはじめ、関係市町や関係団体、県民が一体となって、美化に努めます。



## 1 基本的な考え方

- 全国から参加される皆さんを、県民一丸となって「おもてなしの心」でお迎えし、開催の意義や理念を全国、さらには世界に発信する場とします。
- 全国植樹祭の運営にあたっては、市町、関係団体、NPOおよびボランティア団体等との協力・連携を図りながら進めます。
- 大会で使用する資材等には、県産木材を積極的に活用するとともに、廃棄物の3R(リデュース、リユース、リサイクル)の徹底、とりわけ大会参加者への物品の提供については、ワンウェイ(使い捨て)プラスチック包装・容器等の使用を極力なくすなど、環境に最大限配慮した大会を目指します。
- 高齢者や障害者をはじめ、すべての参加者の安全、安心を確保し、快適に、清潔に過ごせるよう、ハード面はもちろんのこと、情報アクセシビリティの観点なども含めて、ユニバーサルデザインを意識しながら進めます。
- 手洗い、マスクの着用、人と人との距離の確保等、基本的な感染症対策を徹底し、安心・安全な大会を目指します。

## 2 招待計画

区分		人数	内訳
中央特別招待者①		20人	国務大臣、公益社団法人国土緑化推進機構会長、滋賀県知事、県議会議員、次期開催県知事、琵琶湖・淀川流域の府県関係者、開催市長等
特別招待者	県外特別招待者	80人	県選出国會議員、中央官庁・団体関係者、緑化功労者、コンクール入賞者等
	県内特別招待者	250人	県議会議員、市町長、緑化功労者、実行委員会委員等
	小計②	330人	
一般招待者	県外一般招待者	100人	各都道府県森林・林業関係者等
	県内一般招待者	550人	県内の森林・林業・緑化関係者、県内公募による一般県民等
	小計③	650人	
招待者小計(①+②+③)		1,000人	
本部員・協力員④		2,000人	実施本部員、協力員、出演者、運営ボランティア等
合計(①+②+③+④)		3,000人	

### 3 招待者行動計画

#### <当日スケジュール>

時間	全体進行	中央 特別招待者	特別招待者		一般招待者		本部長 協力員等
			県外	県内	県外	県内	
	人数	20人	80人	250人	100人	550人	2,000人
		指定宿泊地	指定宿泊地	指定集合地	指定宿泊地	指定集合地	指定集合地
	おもてなし 広場	指定宿泊地	記念植樹	記念植樹	記念植樹	記念植樹	
		入場・着席	入場チェック	入場チェック	入場チェック	入場チェック	
		入場・着席	昼食	昼食	昼食	昼食	
		到着・着席	着席	着席	着席	着席	
	イントロダクション	イントロダクション					
45分 程度	プロローグ	プロローグ					
60分 程度	式典行事 記念式典	代表者植樹	記念式典				
30分 程度	エピローグ	エピローグ					
	おもてなし 広場	駅等	駅等で解散	指定地 解散	駅等で 解散	指定地 解散	各配置 場所
							指定 集合地

※招待者の行動計画は変更となる場合がある。

## 4 受付計画

### (1) 前日受付

- 宿泊する招待者については、大会前日、宿泊施設にて1回目の受付に加え検温を行います。
- 宿泊施設には招待者専用の受付を設置し、スムーズなチェックインができるようにします。
- 宿泊施設での受付業務は、原則、実施本部員が行います。

### (2) 当日受付

- 全国植樹祭当日の受付は宿泊施設や指定集合地で行い、バスに乗車する前に検温と手指消毒を行います。
- 指定集合地では、安全性の確保のため、原則、専用の受付場所を設けて招待者の受付に当たります。
- 大会用品等が不足した場合に備え、大会用品等のストックヤードを設け、不足品の対応を行います。
- 必要に応じて受付業務の補助や配付物の補充等の対応がとれるよう、関係者と連携を図ります。

### (3) 招待者に配付する記念品等

- 全国植樹祭の開催理念や大会テーマ、滋賀県の自然や産業、観光資源、特産品等を全国に情報発信するために、記念品等を配付します。
- 記念品の選定にあたっては、県産品の活用を図り、環境に配慮したものとするとともに、遠方からの招待者の持ち帰りやすさに配慮します。
- 式典の円滑な運営のため、大会持込用透明袋や帽子等を配付します。

## 5 特別接伴計画

特別接伴が必要と認められる招待者には、実施本部員が次の対応を行います。

- 中央特別招待者
  - ・ 移動には原則として、借り上げ車等の乗用車を使用します。
  - ・ 前日は、出迎えから宿泊場所への案内など常時サポートします。
  - ・ 式典当日は、出迎えから受付誘導、会場内の案内、植樹誘導、昼食案内、見送りまで常時サポートします。
  - ・ 中央特別招待者の行動が常時把握できる通信連絡体制を整えます。

## 6 作品御覧

国土緑化運動・育樹運動ポスター原画コンクールの優秀作品および第72回全国植樹祭大会ポスター原画作品を展示し、天皇皇后両陛下に御覧いただきます。

【主 催】 公益社団法人国土緑化推進機構、滋賀県

【出席者】 国土緑化運動・育樹運動ポスター原画コンクール入賞者  
第72回全国植樹祭大会ポスター原画作者

## 7 御懇談

天皇皇后両陛下と、林業の振興や緑化の推進などに功労のあった方々との御懇談の場とします。

【主 催】 滋賀県

【御懇談対象者】 特別招待者等



## 8 湖国「滋賀」のおもてなし・魅力発信

- 招待者の皆さんに、琵琶湖をはじめとする豊かな自然や、文化、歴史的資産など、本県の持つ多種多様な魅力を伝えるため、公式ホームページ等を活用した観光PRや、大会参加者への観光パンフレット等の配布により、本県の魅力ある観光情報等を広く発信します。
- 「おもてなし広場」等での観光案内や、森の恵みをはじめとする本県の多様な地場産物等を取り揃え、物産販売を促進します。

### (1) おもてなし広場計画

- 式典会場内におもてなし広場を設置します。招待者が安全・安心・快適に過ごせるよう総合案内所や湯茶配布所、救護所、仮設トイレを整備します。
- 国民的資産に位置づけられた琵琶湖や森林などの豊かな自然、県内各地の多種多様な食や文化、歴史的資産など、本県の魅力を関係団体等と協力しながら広く発信します。
- おもてなし広場では森の恵みをはじめとする本県の多様な地場産物等を取りそろえ、物産販売を促進するとともに、ゆっくりとくつろいでいただける空間とします。
- 感染症対策として、おもてなし広場での飲食コーナーは設置せず、招待者席でのみ飲食可能とします。

区分	種類	内容
おもてなし広場	総合案内所	参加者に対する各種案内・情報提供、案内誘導、各種パンフレットの配布、遺失・拾得物の管理。
	おもてなしステージ	歌や踊り、郷土芸能等の披露。
	湯茶配布所	参加者に湯茶、ミネラルウォーターを提供。
	販売コーナー	県内の特産品等の販売。
	展示コーナー	県内の森林・林業、観光等を紹介。
	森-川-里-湖コーナー	県内の農林水産業に関わる展示等を実施。
	臨時郵便局	記念切手の販売、郵便・宅配サービス。
	救護所	参加者の体調管理・救護。
	休憩コーナー	休憩所を設置。
植樹会場	案内所・簡易救護所	参加者に対する各種案内・情報提供、応急処置。

<おもてなし広場展開イメージ>



## (2) 昼食計画

### ① 基本的な考え方

- 県産食材、地元特産品等をふんだんに使用した「滋賀県らしい」弁当とし、滋賀の食文化を積極的にPRします。
- 昼食の製造、輸送、保管、配付は衛生・安全面に万全を期すとともに、弁当箱に植物由来100%かつ生分解性のプラスチック容器を使用するなど、容器・包装資材についても環境に配慮したものを使用します。
- 納入業者の選定は、製造能力および運搬時間・距離等を検討して選定します。
- 弁当は基本的に招待者に配付し、実施本部員には日持ちのする食品を配付します。招待者の欠席等により弁当の余剰が出た場合は、実施本部員に弁当を配付します。大会終了後、配付しなかった実施本部員用の食品は、必要とされる団体や施設等に提供し、食品ロスの削減を図ります。
- 感染症対策として、招待者は人と人との距離を取った自席でのみ飲食できることとし、黙食を徹底します。



近江牛じゅんじゅん 卵焼き	近江しゃもマリネ ミニトマト	丁稚羊羹 糸切餅
みずかがみ 日野菜漬け	小松菜と水口かん びょうの胡麻和え しいたけ 乾燥湯葉 小鮎の山椒煮	赤こんにやく えび豆煮 枝豆ご飯(コシヒカリ) ピワマスフレーク

今大会で提供予定の弁当

### ② 昼食場所

- 招待者は、招待者席での昼食(弁当)とします。
- 出演者、実施本部員等は、それぞれの業務に従事する場所での昼食とします。
- 弁当の配付については本部員が準備し、効率的に配付します。

## (3) 湯茶配布計画

- 招待者、出演者等が快適に過ごせるよう式典会場に湯茶配布所を設置します。
- 会場内の複数箇所です飲料を提供します。

## 9 サテライト会場等計画

### (1) 基本的な考え方

- 式典参加者のみならず、多くの県民の方々に第72回全国植樹祭を身近に感じていただくため、長浜市のえきまちテラス長浜、草津市の琵琶湖博物館、甲賀市の忍の里プララにサテライト会場を設置し、式典の放映や各種出展ブースを設置します。
- 多くの県民の方々に植樹を体験していただくため、県内3か所に一般植樹会場を設置します。
- 事前に琵琶湖・淀川流域の2か所にPR会場を設置し、植樹祭をPRするとともに、当日のサテライト会場、一般植樹会場への参加を促します。

### (2) サテライト会場

#### ① えきまちテラス長浜

地域の資源・ノウハウを活用し、民間・地域団体との協働によるサテライト会場を展開します。

##### 【実施予定内容】

- ・式典中継 ・飲食イベント
- ・音楽イベント ・林業体験
- ・自然体験アクティビティ ほか



#### ② 琵琶湖博物館

琵琶湖博物館の魅力と地域団体の活動と連携したサテライト会場を展開します。

##### 【実施予定内容】

- ・式典中継 ・木育ミニパーク
- ・各種ワークショップ
- ・ドローン操作体験 ほか



#### ③ 忍の里プララ【甲賀市設置】

施設内にある甲賀流リアル忍者館と連携し、主会場となる地元甲賀市の魅力を活かしたサテライト会場を展開します。

##### 【実施予定内容】

- ・式典中継 ・木育広場
- ・木工体験 ・苗木等の無料配布 ほか



## (3) 一般植樹会場

## ① びわこ地球市民の森



## ② 森林公園くつきの森



## ③ きゃんせの森



県民誰でも気軽に植樹ができることをコンセプトに、森づくりの意義を伝える植樹イベントを実施します。

## 【実施予定内容】

- ・植樹祭使用樹種の植樹
- ・苗木の無料配布 ほか

## (4) PR会場 ※琵琶湖・淀川流域で大会前に開催

## ① 岡崎公園 (令和4年3月19日(土))



提供：京都市

## ② 大阪城公園 (令和4年3月26日(土))



提供：大阪城パークセンター

琵琶湖の恵みを受ける琵琶湖・淀川流域の府県に対し、滋賀の森林が担う大切な役割や大会趣旨のPRを行うとともに、観光分野とも連携してサテライト会場をはじめとした本県への誘客を図ります。

## 10 医療・衛生計画

### (1) 医療救護所の設置

- 式典会場に救護所、植樹会場に簡易救護所を設置し、傷病者の医療救護を行います。
- 救護所には、救急用品や休憩用ベッド、AED等を備えます。
- 消防署や近隣の医療関係機関の協力を得て、緊急の場合の搬送・受入体制を整えます。

### (2) 熱中症対策

- 晴天による高温が予想される場合、参加者に対し式典開始前に紙パック飲料等を配付し、熱中症予防に努めます。
- 場内放送で湯茶配布所の案内と、こまめな水分補給を呼びかけ、熱中症に対する注意を促します。
- 体調不良者に備えて、救護所に空調設備を設置し、経口補水液を備えるなど適切な処置を行える体制を整えます。

### (3) 感染症対策

- 救護所内では適切な人と人との距離の確保に努めるとともに、アルコール消毒等により感染症予防に努めます。
- 新型コロナウイルス感染症罹患者とそれ以外の方の接触を避けるため、救護所には隔離可能な別室を用意するとともに、新型コロナウイルス感染症の罹患が疑われる場合は、別室に隔離の上、体調不良者搬送車で適切に搬送を行います。

### (4) 衛生対策

- 保健所等の協力を得て、食品衛生や環境衛生について、関係機関と協議を行い、衛生対策体制を整備します。
- 食の安全を期すため、弁当業者や宿泊施設、会場内の食品提供施設などの指導を徹底します。
- 飲食等により発生する廃棄物の適切な処理を行い、各会場およびその周辺の環境美化に努めます。

## 11 消防・防災・警備計画

### (1) 基本的な考え方

- 消防、警察、その他関係機関との協力体制を築き、連携を密にして、招待者等の安全を確保し、安心して参加いただけるようにします。
- 危機管理については、責任者を明確にし、迅速な初期対応ができるようマニュアル等を作成し、研修を行います。

### (2) 消防・防災

- 参加者の安全を確保し、安心して参加できるようにします。
- 実施本部の消防・防災・警備班が中心となり、本部員や協力員等が連携して異常の早期発見、通報に努めます。
- 会場内は、喫煙所を除きすべて禁煙とし、主要施設には消火器を設置します。
- おもてなし広場等の火気使用についても管理を徹底します。
- 避難については、避難計画を策定し、実施本部員への周知徹底を図るとともに、参加者全員が安全に避難できる体制を整えます。

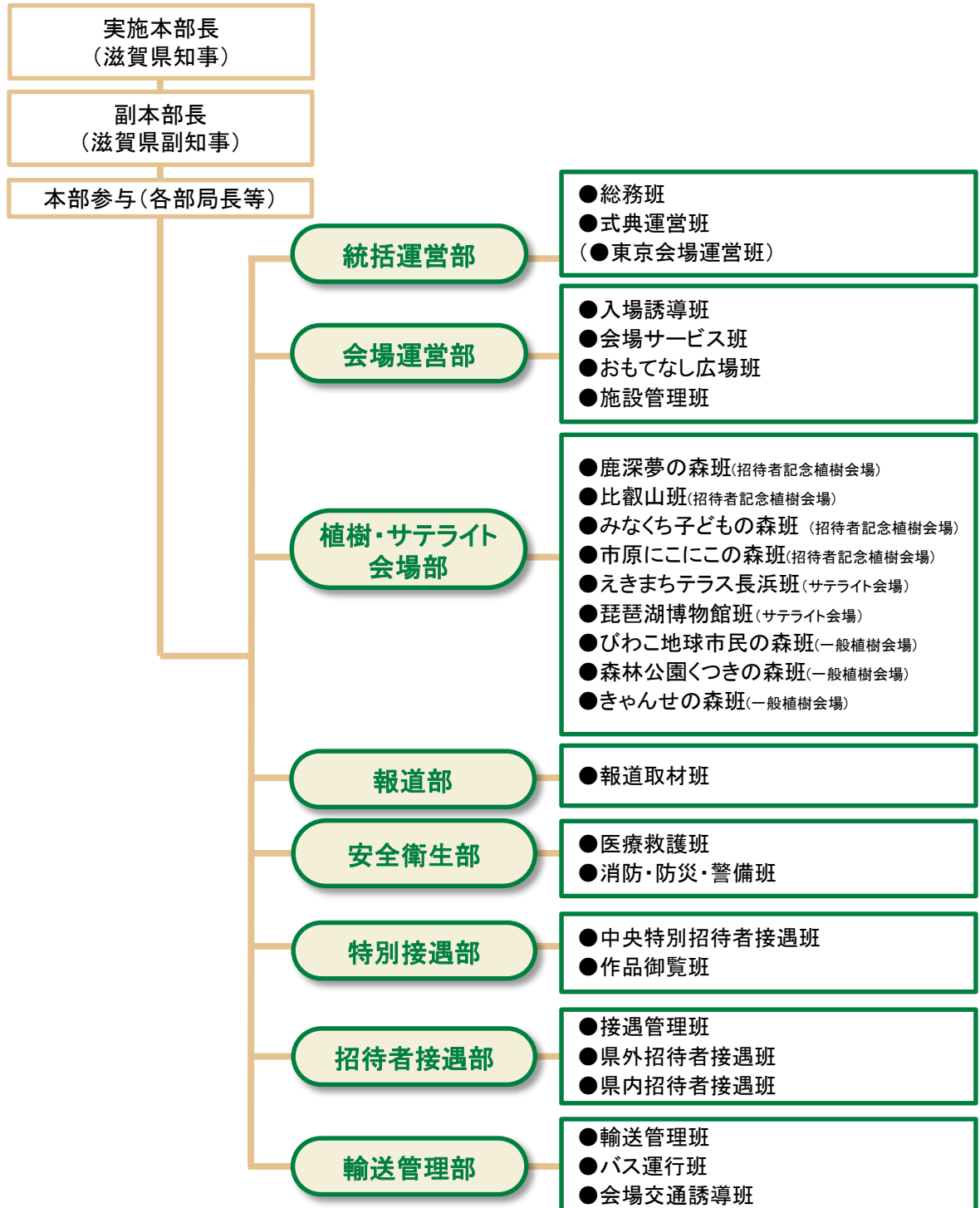
### (3) 警備

- 会場内での事件・事故を防止し、全国植樹祭の円滑な運営を図るため、関係機関と協力して警備を実施します。
- 警備員や実施本部員などを配置して、警備や車両の整理、参加者の誘導を行います。
- 式典会場の入場ゲートでは、金属探知機による持ち物検査や入場者の確認を行います。

## 12 実施本部計画

- 円滑な運営を図るための実行組織として、「第72回全国植樹祭滋賀県実施本部」を設置します。
- 県職員の外、開催市職員、ボランティアなどの積極的な協力を得て効率的な要員配置を行うとともに、実施運営の円滑化や参加者の安全性、快適性の確保に努めます。

### 第72回全国植樹祭滋賀県実施本部・組織体制図



## 13 研修リハーサル計画

- 円滑な運営に向けて、実施本部員、協力員（関係市町職員、ボランティア等）の研修を行うほか、出演者を含めたリハーサルを実施します。
- 効果的な研修・リハーサルを実施するため、事前に、各班単位の「運営マニュアル」を作成します。
- リハーサル計画に基づき、実施本部員全員が業務内容を把握できるようにします。

### (1) 実施本部員等の研修計画

実施本部員、協力員（関係市町職員、ボランティア等）の研修は、事前の資料配付、現地視察、リハーサルへの参加等により実施します。

### (2) 研修・リハーサル計画

区分	時期	場所	参加者	内容
式典研修会等	令和4年1～3月	県内施設	出演者等	大会概要・参加内容説明
式典リハーサル	令和4年 4月9日(土)	式典会場	出演者(介添者) 実施本部員	式典部分のリハーサル
総合リハーサル	令和4年 4月24日(日)	式典会場	実施本部員 協力員 出演者	全体通しリハーサル、車両・参加者誘導、接遇研修、非常時訓練他
荒天会場リハーサル等	令和4年 5月21日(土)	荒天会場	出演者(介添者) 実施本部員	会場確認および説明
前日リハーサル	令和4年 6月4日(土)	式典会場 植樹会場	実施本部員 協力員 出演者	全体通しリハーサル、車両・参加者誘導、接遇研修、非常時訓練他

## 14 雨天時・強風時対応計画

- プログラムごとに雨天計画を策定し、役割分担の明確化と雨天体制へのスムーズな移行を行います。
- 式典演出については、天候に応じ各出演団体との協議の上、内容の変更を決定します。
- 会場警備上、傘の持込みができないため、事前にレインコートを配付します。



## 1 基本的な考え方

- 宿泊招待者(主に県外招待者)は、式典前日に実行委員会が指定する施設に宿泊することを原則とします。
- 式典当日は、宿泊招待者は宿泊施設から、当日招待者(主に県内招待者)は県内各地に指定する集合地から、原則として実行委員会が手配するバスにより会場に移動することとします。
- 宿泊施設の収容人員、宿泊料金、道路交通事情、送迎体制を総合的に勘案し、無理のない宿泊・輸送体制を整えます。
- 招待者の安全で円滑な輸送を図るため、運行ルート、輸送スケジュールおよび必要な交通規制などについて、関係者で綿密な打ち合わせを行うとともに、添乗員の配置・案内により快適な輸送体制を整えます。
- 会場周辺およびアクセス道路沿線の安全を確保し、警備に万全を期します。
- 会場へのアクセス道路沿線については、関係市町や県民の皆さんの協力の下で美化に努めるとともに、招待者を歓迎します。
- 滋賀県の温かいおもてなしの心をもって、無理のない安全・安心な宿泊・輸送体制を整えます。
- 外国の方の参加にも配慮し、状況に応じて外国語での表記や案内を行います。
- 宿泊・輸送については、人と人との距離を保つなど、県が定める感染拡大防止ガイドラインに基づき、新型コロナウイルス感染症対策を実施します。

## 2 宿泊計画

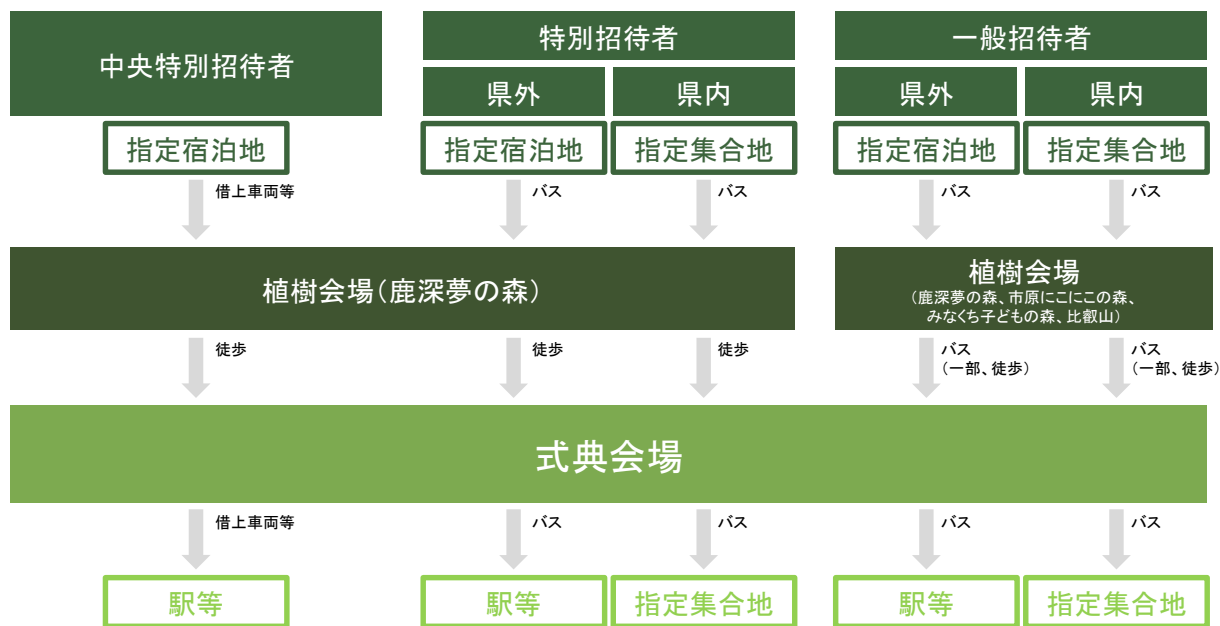
- 式典会場や植樹会場までの道路状況やアクセス等を考慮した適切な宿泊エリア・宿泊施設を選定します。
- 施設内または近隣で、安全にバスの乗降できる場所が確保された宿泊施設を選定します。
- フロントやロビー等宿泊施設内に専用デスクを設置し、招待者に大会用品等を円滑かつ確実にお渡しできる体制を整備します。
- 食事のメニューについては、本県の食のPRのため県の特産品を積極的に取り入れたメニューを提供するように努めます。
- 緊急時に搬送できる救急病院や緊急時対応者の有無、AED(自動体外式除細動器)の設置状況を事前に把握し、万が一の事故に備えます。

### 3 輸送計画

#### (1) 輸送方針

- 参加者はバスで輸送することを基本とし、招待者区分ごとに輸送計画を作成します。
- 参加者の安全で円滑な輸送を行うため、バス事業者、関係機関と協議・検討の上、運行ルートを決めます。
- 式典当日の道路混雑等のリスクを想定し、できるだけ移動時間がかからない最短ルートを設定します。
- 交通事故や渋滞等の不測の事態に備え、代替ルートや迂回ルートの設定を行います。

#### <輸送フロー>



## 1 基本的な考え方

- 暴風雨、集中豪雨等の荒天に見舞われ、式典会場での式典が困難であると判断した場合は、荒天会場での式典を実施します。
- 開催日の1週間前から随時情報収集に努め、荒天会場での実施の可否を判断します。
- 荒天会場での実施決定に備え、関係機関と万全の連絡体制を構築し、円滑な実施運営を行います。

## 2 開催会場

◆ あいこうか市民ホール  
(甲賀市水口町水口5633番地)



## 3 開催規模

- 県内外からの招待者等を合わせて500人程度の規模に縮小して開催します。

区分	人数	内訳
中央特別招待者	20人	国務大臣、公益社団法人国土緑化推進機構会長、滋賀県知事、県議会議長、次期開催県知事、琵琶湖・淀川流域の府県関係者、開催市長 等
県外特別招待者	80人	県選出国會議員、中央官庁・団体関係者、緑化功労者、コンクール入賞者 等
県内特別招待者	100人	県議会議員、市町長、緑化功労者、実行委員会委員 等
本部員・協力員	300人	実施本部員、協力員 等
合計	500人	

※新型コロナウイルスの感染状況によっては、今後開催規模を変更する可能性があります。

## 4 荒天時運営計画

### (1) 式典計画

- 晴天時の3部構成を記念式典のみとし、大会テーマの表現、代表者記念植樹を除いた構成とします。
- 式典行事の時間は、50分程度とします。
- 音楽は事前に収録した演奏音源とCD等を使用します。

### (2) 式典プログラム

時間	進行
30分程度	<b>【招待者等入場】</b> ・国務大臣、公益社団法人国土緑化推進機構会長、滋賀県知事、 県議会議長、次期開催県知事、開催市長等
50分程度	<b>【式典】</b> ・天皇皇后両陛下 御着席 ・開会のことば ・国歌斉唱 ・主催者挨拶 ・天皇陛下のお言葉 ・表彰 ・苗木の贈呈 ・天皇皇后両陛下 お手植え・お手播き ・大会宣言 ・リレーセレモニー ・閉会のことば ・天皇皇后両陛下 御退席
	<b>【招待者退場】</b>



## 1 基本的な考え方

- 第72回全国植樹祭の開催理念を広めるとともに、将来を見据えた滋賀の森林づくりや木材利用の必要性等を広く啓発するため、県民や琵琶湖・淀川流域をはじめ、日本、世界の皆さんに、琵琶湖とその水源となる森林の大切さを理解し、親しんでいただける記念事業を実施します。

## 2 記念事業

### ● 苗木のホームステイ・スクールステイ

森林の大切さと緑づくりへの関心を高めるため、全国植樹祭等で使用する苗木を、県内および琵琶湖・淀川流域の一般の方や企業・団体等に育成してもらう「苗木のホームステイ」を実施します。また、県内の小学校4年生を対象とした森林環境学習「やまのこ」事業とも連携し、「苗木のスクールステイ」を実施。

- ◇「苗木のホームステイ」  
＜時期＞ 平成30年10月～
- ◇「苗木のスクールステイ」  
＜時期＞ 令和元年5月～



### ● ビワイチぶらす森づくり事業

県内全域・県民総ぐるみで大会を盛り上げていく取組の一環として、全市町で一般県民等を対象とした森づくりイベント等を実施。

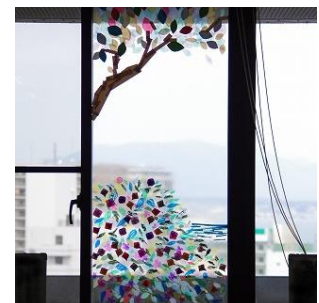
- ＜時期＞ 令和元年11月10日(日)～
- ＜場所＞ 県内各地域
- ＜内容＞ 植樹、森林整備、木工体験および植樹祭のPR活動等



### ● コロナに負けないぞ！！子ども応援プロジェクト

新型コロナウイルス感染症の影響により外出が制限される中、子どもたちに家に居ながらにして取り組める「コロナに負けないぞ！！子ども応援プロジェクト」の一環として、森や自然に対する関心と全国植樹祭への意識の高揚を図る取組を実施。

- ◇「窓の景色で森アート インスタグラムフォトコンテスト」  
＜内容＞ 自宅の窓に色紙やセロファンで森や山の風景を作り、インスタグラム上でフォトコンテストを行う。  
＜時期＞ 令和2年4月15日～7月31日
- ◇「自然の中の宝ものさがし」  
＜内容＞ 自然の中で集めた落ち葉に絵の具を塗ってノートなどに拓本するSYOKUJUIN帳づくり等を行う。  
＜時期＞ 令和2年6月1日～9月30日
- ◇「おうちで木工マイスター！？With全国植樹祭しが2022」  
＜内容＞ 木工作品づくりをとおして子ども達に木の良さや親しみを感じてもらう。  
＜時期＞ 令和2年7月15日～8月5日



### ● 緑の少年団「グリーンジャンボリー」

第72回全国植樹祭において重要な役割を担う緑の少年団の育成および大会への機運醸成のため、県内および琵琶湖を水源として利用する府県(大阪府)の少年団の交流、活動発表を実施。

- <時期> 令和元年10月27日(日)
- <場所> 鹿深夢の森 かふか生涯学習館(甲賀市甲賀町)
- <内容> 活動発表、樹木観察、ネイチャーゲーム、木工体験(プランターカバー作り)

### ● こども水源の森サミット

県内全域に加え、琵琶湖を水源として利用するすべての府県から緑の少年団の参加を募り、大会への機運を醸成するとともに、琵琶湖・淀川流域における滋賀県の森林づくりの重要性を共有。

※全国植樹祭の1年延期に伴い、2か年で実施

- <時期> 令和2年11月22日(日)
- <場所> サントピア水口、みなくち子どもの森(甲賀市水口町)
- <内容> 野外散策、植樹活動、木工工作  
リモート交流会(表彰、活動発表、クイズ)  
〔参加団:滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県〕

- <時期> 令和3年11月14日(日)
- <場所> 土山室内運動場および  
その周辺(甲賀市土山町)
- <内容> 活動発表、表彰、クイズ、自然観察、木工工作



### ● 秋のプレ植樹祭inみなくち子どもの森

全国植樹祭の1年延期に伴い、大きくなりすぎてしまった苗木を活用するとともに、コロナ禍で外出が制限される状況下でも中だるみせず、大会に向けた機運の高揚を図るために開催。

- <時期> 令和2年11月22日(日)
- <場所> サントピア水口、みなくち子どもの森(甲賀市水口町)
- <内容> 表彰式(森林林業緑化功労者、緑化関係ポスター原画コンクール等)、記念植樹、木工体験、林業体験



### ● 第72回全国植樹祭1年前記念イベント「緑のしずく祭」

全国植樹祭の開催1年前の時期に、大会の周知、開催機運の醸成を図るため開催。

※全国植樹祭の1年延期に伴い、当イベントも1年延期して開催。

- <時期> 令和3年6月6日(日)
- <場所> ビラデスト今津(高島市今津町深清水)
- <内容> 記念伐採、記念植樹、表彰式

**● カウントダウンイベント**

第72回全国植樹祭開催機運を盛り上げるため、開催日までのカウントダウンイベントを実施。

## ◇「200日前記念イベント」

- <時 期> 令和3年11月27日(土)
- <場 所> 鹿深夢の森(甲賀市甲賀町)
- <内 容> 知事とのトークセッション 等

## ◇「開催直前記念イベント」

- <時 期> 令和4年3月20日(日)
- <場 所> 琵琶湖博物館(草津市)
- <内 容> 特別展示除幕式 等

**● 「木製地球儀」巡回展示**

第72回全国植樹祭の開催機運を醸成するため、大会シンボルである「木製地球儀」を県内各地で巡回展示。

<時 期> 令和3年6月～

**● 記録誌の発行、記録映像の作成**

第72回全国植樹祭の式典行事、植樹行事をはじめ、各種記念事業などの取組みを、記録誌や記録映像等にまとめ、関係機関等に配付。

**● 記念碑の建立**

第72回全国植樹祭の開催を記念し、記念碑を建立。

※記念事業等は検討状況に応じて適宜追加します。

### 3 関連事業

関連事業は、関連団体が主催する事業のうち、第72回全国植樹祭の目的と関わりが深く、実行委員会と互いに連携していく必要がある事業とします。

**● 第50回全国林業後継者大会**

全国の林業後継者が一堂に会し、林業の振興と森づくりの重要性について意見を交わし、林業を担う人たちが、希望や誇りを持って働き続けられる林業の魅力を全国に発信。

- <時 期> 令和4年(2022年)6月4日(土) (第72回全国植樹祭の前日)
- <場 所> 多賀町中央公民館「多賀結いの森」
- <内 容> 森林・林業関係者の活動発表、パネルディスカッション等

## 1 基本的な考え方

- 広報宣伝や協賛募集を通じて、大会の開催理念、基本方針、内容等について広くPRすることで、開催への機運を高めるとともに、これを契機として、県民や琵琶湖・淀川流域をはじめ、日本、世界の皆さんに、琵琶湖とその水源となる森林の大切さを理解し、親しんでいただける機会を提供します。
- 広報媒体の特性を活かした情報発信により、効果的な広報活動を実施します。

## 2 広報計画

全国植樹祭の開催理念や事業の展開について、広く普及・浸透を図るために行います。

- 各報道機関との連携を深めるとともに、第72回全国植樹祭の広報誌を発行します。
- 公式ホームページを開設し、各種イベント・取組等に関する情報を積極的に発信するとともに、各種の問い合わせや申し込みなどについてもインターネットを効率的に活用します。
- 大会テーマ、シンボルマークおよび大会ポスター原画を活用し、第72回全国植樹祭の開催を県内外に広報します。
- 滋賀県イメージキャラクター「うぉーたん」を「第72回全国植樹祭しがPR大使」に任命し、全国植樹祭の関連イベント等への参加や各種SNSを通じて大会のPRを行います。
- カウントダウンボードを県庁など県内5カ所に設置し、第72回全国植樹祭の開催機運を盛り上げます。



第72回全国植樹祭しがPR大使「うぉーたん」

### (1) インターネット活用(各種情報提供・募集など)

第72回全国植樹祭の公式ホームページを開設するとともに、SNSの活用等を通じて、各種イベント・取組等に関する情報を積極的に発信します。また、各種問い合わせや申し込みなどについても、インターネットを効率的に活用します。

### (2) 県・市町の公共広報活用(各種情報提供・募集など)

県および各市町の広報や広報番組等の公共広報媒体を有効活用し、広く県民に向けて、きめ細かい情報提供とPR活動を実施します。

### (3) マスメディア活用(関連行事の報道など)

テレビ、ラジオ、新聞等、各報道機関との連携を深めるとともに、全国植樹祭、記念事業等に関する情報を提供します。

### (4) 企業・団体との連携(広告協賛など)

シンボルマーク等の使用を広く呼びかけるなど、県内を中心とした企業・団体の支援協力による広報活動を通じ、全国植樹祭の周知を図ります。

### (5) 植樹祭情報紙の発行

「植樹祭だより『緑のしずく』」を発行し、開催準備状況や記念事業の実施状況等について情報発信します。また、苗木のホームステイ参加者、苗木のスクールステイ参加校に向け、「苗木だより」を発行し、苗木の育て方や開催準備状況等について情報発信します。特に苗木のスクールステイ参加校には「子どもかべしんぶん 緑のしずく」を発行し、子どもたちにもわかりやすく情報発信を行います。

### (6) PRグッズの作成・配布等

シンボルマーク等を用いた各種PRグッズを作成・配布し、開催の周知と機運の醸成を図ります。



### 3 協賛計画

- 第72回全国植樹祭を一過性のイベントとして終わらせることなく、これを契機として県民参加の森づくりのさらなる拡がりへと繋げていくため、企業や団体に対し、広く支援を求めています。
- 協賛企業等は、第72回全国植樹祭の式典会場や公式ホームページ、広報誌、記録誌等で協賛者名が掲載されるなど、様々な特典が得られます。

#### (1) 資金協賛

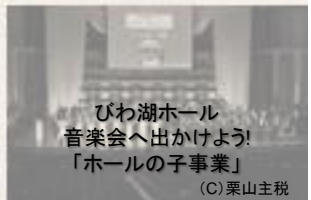
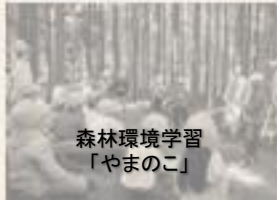
植樹祭行事の実施に要する資金(協賛金)の提供

#### (2) 物品協賛

植樹祭行事の実施に要する物品(協賛物品)の提供

#### (3) その他

車両・機器等の無償貸与、役務の提供、広告掲示などによる協力



【表紙写真】



## 第72回全国植樹祭 実施計画〈概要版〉

令和4年1月

第72回全国植樹祭滋賀県実行委員会事務局  
(滋賀県琵琶湖環境部 全国植樹祭推進室内)



〒520-0807 滋賀県大津市松本一丁目2-1 滋賀県大津合同庁舎内

電話番号：077-528-3970 ファクシミリ番号：077-528-4891

<https://www.pref.shiga.lg.jp/syokujusai-shiga2021/>

または、「第72回全国植樹祭」で検索してください。